

報道関係各位

公益財団法人 笹川スポーツ財団

全国 20 大学 53 チーム約 300 人の大学 3 年生によるスポーツ政策学生会議 「Sport Policy for Japan2016」を開催

最優秀賞 立教大学 松尾ゼミナール B 班

「特別支援学校におけるスポーツ活動の定着促進～スポーツを身近な存在へ～」

笹川スポーツ財団（所在地：東京都港区 理事長：小野清子 以下：SSF）は、日本のスポーツ政策や諸課題に問題意識をもつ大学 3 年生を対象とした、政策提言発表大会「Sport Policy for Japan2016」（SPJ2016）を開催いたしました。参加チームは、10 月 29 日、30 日に口頭発表を行い、事前提出された提言要旨と合わせ、厳正なる審査の結果、最優秀賞、優秀賞等が選出・表彰されました。

本事業では、参加学生が研究・発表活動だけでなく、他大学のメンバーと協働で大会運営も担うことで、大学の枠を超えた新たな学生間のネットワークを作ることも目的としています。

最優秀賞

立教大学 松尾ゼミナール B 班

『特別支援学校におけるスポーツ活動の定着促進～スポーツを身近な存在へ～』

選考理由：特別支援学校でのスポーツ活動という難しいテーマにあえて挑戦した上、定量・定性の調査がきちんとなされ、合理的な提言内容にまとめられているため。

優秀賞（5 チーム）

一橋大学	岡本ゼミチーム A	『子どもの遊びに“冒険”を』
神奈川大学	大竹ゼミチーム S	『若い女性のスポーツ実施率向上を目指して』
明治大学	高峰ゼミナール	『ボールで遊べる公園づくり』
桐蔭横浜大学	渋谷ゼミ A チーム	『スポーツ推進委員の効果的な活動方法を巡って』
立教大学	松尾ゼミ C グループ	『「女性スポーツ」改革プロジェクト』

特別賞（6 チーム）

帝京大学	片上ゼミ	『ブラインドサッカー集客数向上のための施策～ダイバーシティ推進を目指して～』
早稲田大学	間野研究室	『アスリートの現役中におけるキャリア形成支援に関する調査』
札幌大学	東原ゼミ A 班	『より公正なオリンピック・パラリンピック招致プロセスの提案』
一橋大学	岡本ゼミ B チーム	『Walrism ～歩く(walk) × 観光(tourism)～』
大阪体育大学	富山ゼミ B	『ヲタスポ JAPAN』
東北学院大学	スポーツマネジメント研究室	『大規模噴火災害とスポーツ—安全な登山活動を目指して』

審査員 玉木正之氏（スポーツライター）コメント

本 SPJ には、大会初年度の 2011 年から審査員として関わっていますが、年を重ねるごとに学生たちの提言の質やプレゼンの技術が向上していると感じます。今回、最優秀賞に輝いた立教大学の提言も、特別支援学校におけるスポーツ活動の定着の可能性を、丁寧な調査に基づいてうまくまとめた点が評価されました。

日頃、スポーツを学ぶ大学 3 年生がスポーツのもつ価値や社会に与える影響力などについて考えを巡らせ、提言という形にまとめる機会は非常に貴重であり、大事にしてもらいたいと思います。個人的には、提言内容やプレゼン技術が洗練されることを歓迎する一方、大学生ならではの大胆な発想や、ブレイクスルーの可能性を秘めたアイデアをもっと見たいという気持ちも強いです。今後も継続的に関わりながら、そうした点での成長にも期待したいと思います。

	大学名	チーム名	タイトル	概要
最優秀賞	立教大学	松尾ゼミナールB班	特別支援学校におけるスポーツ活動の定着促進 ～スポーツを身近な存在へ～	肢体不自由特別支援学校における運動・ スポーツの普及促進を目的とした支援策の 提案
優秀賞	一橋大学	岡本ゼミチームA	子どもの遊びに“冒険”を	プレーパークのコミュニティ機能を高め、 子どもの運動能力・体力向上を目指す提言
	神奈川大学	大竹ゼミチームS	若い女性のスポーツ実施率向上を目指して	スポーツ実施率の低い20代・30代の女性に対 する、運動頻度ごとのレベルを3段階に分けた 提言
	明治大学	高峰ゼミナール	ボールで遊べる公園づくり	子ども達が様々な制約を受けることなく公園で 遊べることを目指した政策を提言
	桐蔭横浜大学	渋谷ゼミAチーム	スポーツ推進委員の効果的な活動方法を 巡って	地域スポーツの推進が行っていないスポーツ 推進委員の効果的な活動方法を提案
	立教大学	松尾ゼミCグループ	「女性スポーツ」改革プロジェクト	運動頻度が格段に低い女子高校生への運動 促進策を提案
特別賞	帝京大学	片上ゼミ	ブラインドサッカー集客数向上のための施策 ～ダイバーシティ推進を目指して～	競技の普及とダイバーシティ理解に関する 政策提言
	早稲田大学	間野研究室	アスリートの現役中におけるキャリア形成支援に 関する調査	日本において「デュアルキャリア」という考え方 を根付かせるための提言
	札幌大学	東原ゼミA班	より公正なオリンピック・パラリンピック招致 プロセスの提案	メガスポーツイベントの適正な招致プロセスを 提言
	一橋大学	岡本ゼミBチーム	Walrism ～歩く(walk) × 観光(tourism)～	「歩くこと」にインセンティブを付与し、人々を運 動不足解消に導く施策・システムの提案
	大阪体育大学	富山ゼミB	ヲタスポJAPAN	アイドル・アニメ×スポーツで、スポーツに疎遠 な人々にスポーツ機会を提供し、運動不足解 消に繋げる提案
	東北学院大学	スポーツマネジメント研究室	大規模噴火災害とスポーツ —安全な登山活動を目指して—	観光を目的として訪れる登山客も、緊急時に安 全に避難ができる環境づくりの提案

※提言内容の詳細は、後日ホームページに掲載予定

Sport Policy for Japan2016 概要

【目的】 当財団ではスポーツ界に寄与する人材を複層的に育成することを事業の重点テーマのひとつとしており、参加学生が将来的にスポーツ分野の研究者になることを期待するだけでなく、研究者にならずとも「生涯スポーツ振興」の良き理解者として育成され、我が国のスポーツ振興を牽引するリーダーとなることを期待し、本事業を行います。

【主催】 公益財団法人 笹川スポーツ財団
明治大学政治経済学部（会場協力）

【日程】 2016年10月29日（土）～30日（日）

【場所】 明治大学駿河台校舎

【後援】 スポーツ庁、公益財団法人 日本オリンピック委員会、公益財団法人 日本体育協会

【参加人数】 20大学 53チーム 約300名

【開催内容】

- ・参加チームは、提言内容をまとめた提言要旨（A4 4枚）の提出と、大会当日に口頭発表を行う。
- ・提言要旨と口頭発表を審査し、最優秀賞・優秀賞・特別賞を決定。
- ・各チームの代表者による幹事会が、大会運営準備を行う。

※2011～2015年大会の情報は、下記ホームページをご参照ください。

<http://www.ssf.or.jp/spfj/tabid/582/Default.aspx>